



まだ行ったことのない国の人と会った
ら「まだ、行ったことない！次行く
わ！」と言って、本当に会いに行っちゃ
うとすごく感動されますよね！そう
いった事を大切にし人間関係を作っ
てきました。

**息子にはなつてほしくない
しかし『弁護士になりたい』
と聞くと嬉しい(笑)**

弁護士をしていて一番遣り甲斐を感
じるのが、自分の頭ひとつでどこへ行っ
ても戦えることですね。「ベンは剣より
も強し」という考え方に近いかもしれ
ません。おかしいと思つたら、その理由
を述べることさえできれば、誰に対し
てもおかしいと堂々とと言えることは弁
護士ならではのことだと思つています。た
だ・・・息子には弁護士になつて欲しく
ありませんね・・・。弁護士にやりがい

←シンガポールを中心にアジアに関する案件に多く関
与させて頂いています。現地の弁護士と協同して仕
事するため、各国の現地の弁護士との人脈は、私
の仕事にとってはとても重要です。アジアをはじめ
とする主要な国については、現地の弁護士とかなり
知り合っています。また、多くの国の現地の弁護
士と知り合つて、一緒に仕事をしたいと思つていま
す。簡単に言つてしまえば「世界中に友達つづつ、仕
事したい！」といつことですね。

現地の方と信頼関係を作る上で最も近道なの
が、その国に実際に行くこと(できれば、住むこと)
です。例えば、初めて会つたニューヨーク在住の
シユットしたアメリカ人に、日本が好きだと言われ
てもあまり心に響きませんが「大阪に何度も行った
よ！あそこたこ焼き屋うまいよねー！」と言われ
ると、瞬間嬉しく感じるのではないかと思います。

**使命と感するのは
弁護士としての職責を全うすること**

を感じている一方で、それと同時に、弁護士の仕事の
大変さも良く知っています。弁護士がお助けするこ
のケンカという要素が入っていますので、弁護士の
仕事はその他人のケンカに首を突つ込むことにな
ります。普通の人生を送つていければ、他人のケンカに毎
日首を突つ込むことはありませんので、それが毎日
となりますと、結構なストレスになりますね。
この大変さをわざわざ息子が経験しなくても・・・
と思つてしまいます。と言いがら、6歳の息子が、
「お父さんみたいに弁護士になりたい」と言っている
のがちらつと耳に入ると、ちょっと嬉しく感じます
(笑)。

弁護士は弁護士法上、法律に関する仕事を独占
しているため、世界中の人々のあらゆる法的ニーズ
に応えることが使命(ちなみに「世界中の人々のあ
らゆる法的ニーズに応える」は当事務所の理念で
すので、仕事を通して誰か特定の人を幸せにしたい
という考えはありません。誤解を招く説明になる
かもしれませんが、私は、常日頃から「社会の歯車」
になりたいと考えています。社会には様々な能力、
性格、バックグラウンドを持った人が存在し、それ
ぞれの人が自分自身の役割を存分に発揮すること
で、社会が全体としてうまく回る、私もその役割を
存分に発揮したい、という感覚です。弁護士として
の職責を全うすることが使命で、結局のところ、弁
護士が天職だと思つています。その考えからする
と、もしかしたら、最終的に仕事を通して一番幸せ
にしたいのは自分自身かもしれませんね・・・。自分
が幸せでないと、仕事を通してであろうがなからう
が、他の人を幸せにすることは不可能だと思つて
らです。

依頼者を『弁』で『護』る

交渉の相手方に対する回答書案を作成して依頼
者にお送りしたところ、「自分自身では言葉にでき
ない言いたいことを正確に言葉にして頂いてあり
がとうございます。」と言われた時は素直に嬉しく
感じました。弁護士は文字通り依頼者を「弁」で
「護」る職業で、どれだけ依頼者のもやもやした考
え、悩みを、具体的に、正確に、立体的に「弁」じられ
るかはとても重要であると思つています。簡単に言
うと、「言いたいことが言えない」でおられる依頼者
の「言いたいこと」を代わりに言つてあげられれば、
依頼者のストレスは大きく減じられるのだからと思
います。とはいえ、依頼者の言いたいことをだけ
をそのまま代わりに言つていても、いつまで経つても
解決しませんので、依頼者との信頼関係を築いて
うまく依頼者を説得することも重要だと感じてい

ます。

『弁護士』という名前の『職人』で在りたい

仕事を通して「職人として在りたい」常にそう思
うのです。

「辞書(大辞泉)によりますと、職人気質とは「自
分の技能を信じて誇りとし、納得できるまで念入
りに仕事をする実直な性質」だそう、そういう一
文を読むと、「あー、かつちよいい」と思つてしま
います(笑)。古臭い考え方と言われるかもしれませ
んが(最近、徒弟制度はブラックと評しているネッ
ト記事を読んで、少し寂しい気持ちになりました)。
「仕事に真摯に向き合っている人はかつちよい
い」など思つていますし、自分もそう在りたいと思
います。

ベタですが、やはりイチローさんは好きですね。
毎回の練習、毎回の試合、全てに手を抜かずにしつ
かりと準備して、常に自分を高めようとする姿勢
は見ていて清々しく感じさせてもらえるもので、職
人気質を感じます。学生の頃はクラスメイトをラ
イバル視することもありましたが、社会に出てから
は、尊敬する人はたくさんいますがライバル視する
人はいなくなりました。誰かと比較して自分の今の
ポジションを確認する作業自体あまりしたくない
かなあ、と思つています。自分に出来ることを納得
出来るまで掘り下げていきたいですね。

**弁護士法人
淀屋橋・山上合同**

弁護士 大林良寛

- 平成13年3月 洛南高等学校卒業
- 平成17年3月 東京大学法学部卒業
- 平成19年3月 立命館大学法科大学院修了
- 平成19年9月 司法試験合格
- 平成27年4月 シンガポールの司法試験に合格
(日本人として2人目)
- 平成29年4月 立命館大学法科大学院授業担当講師
(英文契約実務)
関西大学法科大学院非常勤講師
(アジア進出企業支援)